

看護業務効率化先進事例収集・周知事業
看護業務の効率化 先進事例アワード2019

優秀賞

タスクシフト・多職種連携部門

社会医療法人石川記念会

H I T O病院

**病棟薬剤師との役割委譲・協働による
病棟薬剤管理業務の見直し**

1. はじめに__施設概要

社会医療法人石川記念会 HITO病院

- 所在地：愛媛県四国中央市
- 病床数：257床
(高度急性期12床、急性期129床)
二次救急 (病院群輪番制参加医療機関)
- 従業員数：542人 (看護職員数 230人)
- 入院基本料看護配置：急性期一般入院基本料1



1. はじめに__施設概要

◆診療科目：内科・消化器内科・循環器内科・脳神経内科

緩和ケア内科・糖尿病内科・消化器内科・心臓血管外科・呼吸器外科

肛門外科・脳神経外科・整形外科・形成外科・美容外科・皮膚科

泌尿器科・リハビリテーション科・婦人科・放射線科・麻酔科・歯科

◆職員数：542名

(医師34名、看護師230名、薬剤師14名、リハビリスタッフ75名、放射線技師12名
管理栄養士11名 検査技師9名 臨床工学技士4名 診療クラーク20名 他)

◆病床稼働率：91% 平均在院率：13.7日(2019.11)

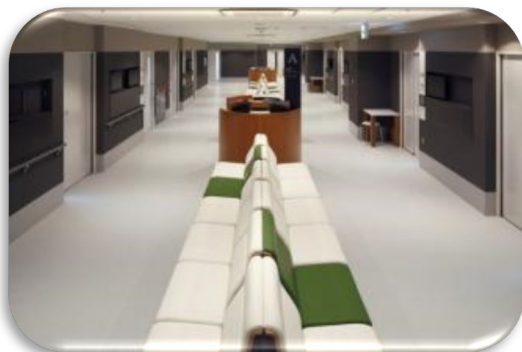
◆病院行動指針「Human 1st」

Humanity:患者さまを家族のように思い温かく接します

Interaction:患者さまとの対話を尊重し相互理解に努めます

Trust:技術と知識の研鑽に努め信頼される医療を目指します

Openness:心を開き患者さまと公平に向き合います



いきるを支える医療・介護・福祉の実現。

住み慣れた町でいつまでも
安心して暮らしたいー。
だからこそ皆様の暮らす町で
私たちは医療・介護・福祉を
お届けします。

IHG

ISHIKAWA HEALTHCARE GROUP

専門性
の高い
急性期医療

5疾病対応

365日の
リハビリ

健診による
疾病予防

終末期
のケア

認知症予防
認知症ケア

在宅
復帰支援

介護サービス
介護予防

送迎による
施設への
通所

障害者デ
ィサービス

送迎付き
通所介護

自宅訪問
による介護

24時間
365日の
訪問看護

急性期
リハビリ

24時間
365日の
救命救急

医療法人
健康会

社会福祉法人
愛美会

2. 取り組みの背景と目的

病院の置かれている課題

- 人口減少、少子高齢化
- 社会保障費の削減
- 地域間格差
- 働き方改革
- 地域医療構想

次世代に対応する医療環境・意識改革
多様化する時代に対応する柔軟性
持続可能な病院のあり方

看護部の課題

- ①始業前時間外が慣例化し時間外勤務時間が多い
- ②病棟薬剤管理業務に時間を要している
- ③直接看護業務の開始が遅くなっている
- ④薬剤管理のインシデントの発生が多い



病棟薬剤師との役割委譲・協働による
病棟薬剤管理業務の見直しに取り組む



目的

業務の効率化を図る

始業前時間外勤務を削減する

薬剤管理におけるインシデント減少を目指す

*事前調整(薬剤部との調整)

薬剤部長と看護部長が互いの部署課題について意見交換し、病棟薬剤管理業務の役割委譲と協働についてコンセンサスを得る

2. 取り組みの背景と目的

病棟薬剤師との役割委譲・協働による病棟薬剤管理業務の見直し

- 目的：**
1. 病棟薬剤師管理業務内容を明確にし、**看護師・薬剤師が専門性に応じた役割を実践**する
 2. 職種間の業務連携や情報共有を推進し、**安全・安心な薬剤管理業務を実践**する

行動目標： 薬剤師は薬剤管理を
看護師は患者への配薬・内服確認を適切に実践する

期間： 2019年4月～継続中

3. 取り組みの経緯

取り組み前の病棟薬剤管理業務内容（看護師実施）

- ①病棟管理の患者の**内服薬を配薬カートに患者別・1週間分セット**
(1回配薬BOX使用)する
- ②**追加処方薬・持参薬・中止薬を**、医師の指示に基づき、配薬カートに**患者別・1週間分セット**する
- ③病棟常備薬・救急カート薬剤・麻薬等を**使用期限・定数を1日1回点検**する
- ④各勤務帯で担当看護師は、**病棟管理の内服薬を配薬カート指示簿と薬剤を確認・取り出し患者に配薬**する
- ⑤医師の指示で、**追加薬剤処方や中止薬の情報を病棟薬剤師に業務連絡**する

3. 取り組みの経緯

協働する病棟薬剤管理業務を選定

病棟薬剤師業務

- ①病棟管理の患者の内服薬を配薬カードに患者別・1週間分セット（1回配薬BOX使用）する
- ②追加処方薬・持参薬・中止薬を、医師の指示に基づき、配薬カードに患者別・1週間分セットする
- ③病棟常備薬・救急カート薬剤・麻薬等の使用期限・定数を1日1回点検する

担当看護師業務

- ①各勤務帯で担当看護師は、病棟管理の内服薬を配薬カード指示簿と薬剤を確認・取り出し、患者に配薬する
- ②医師の指示で、追加薬剤処方や中止薬の情報を病棟薬剤師に業務連絡する

3. 取り組みの経緯

タスクシフティングの導入状況

2019年4月 回復期リハビリテーション病棟



2019年8月 急性期病棟

全ての病棟でのタスクシフティングが完了

取り組み前後において
勤務帯の病棟薬剤管理業務時間数・
薬剤インシデント報告数の調査を実施した

3. 取り組みの経緯

配薬カート



配薬カート（48名収納可）



1ケース6日分（朝・昼・夕・眠前）

病棟には、配薬カートが2台設置されている

3. 取り組みの経緯

調査期間

1) 取り組み前調査

回復期病棟：2019年3月4日(月)～3月8日(金)

急性期病棟：2019年7月1日(月)～7月5日(金)

2) 取り組み後調査

回復期病棟：2019年5月20日(月)～5月24日(金)

急性期病棟：2019年9月2日(月)～9月6日(金)

＜＜対象者＞＞

各病棟の看護師長を除く病棟看護師87名

3. 取り組みの経緯

調査方法

1) 取り組み前調査

- ①定期・臨時薬の処方時の確認および配薬カートへの準備時間
- ②担当看護師が、当日担当患者の薬剤と処方箋を確認し患者に投薬するまでの時間
- ③薬剤に関するインシデント報告件数

2) 取り組み後調査

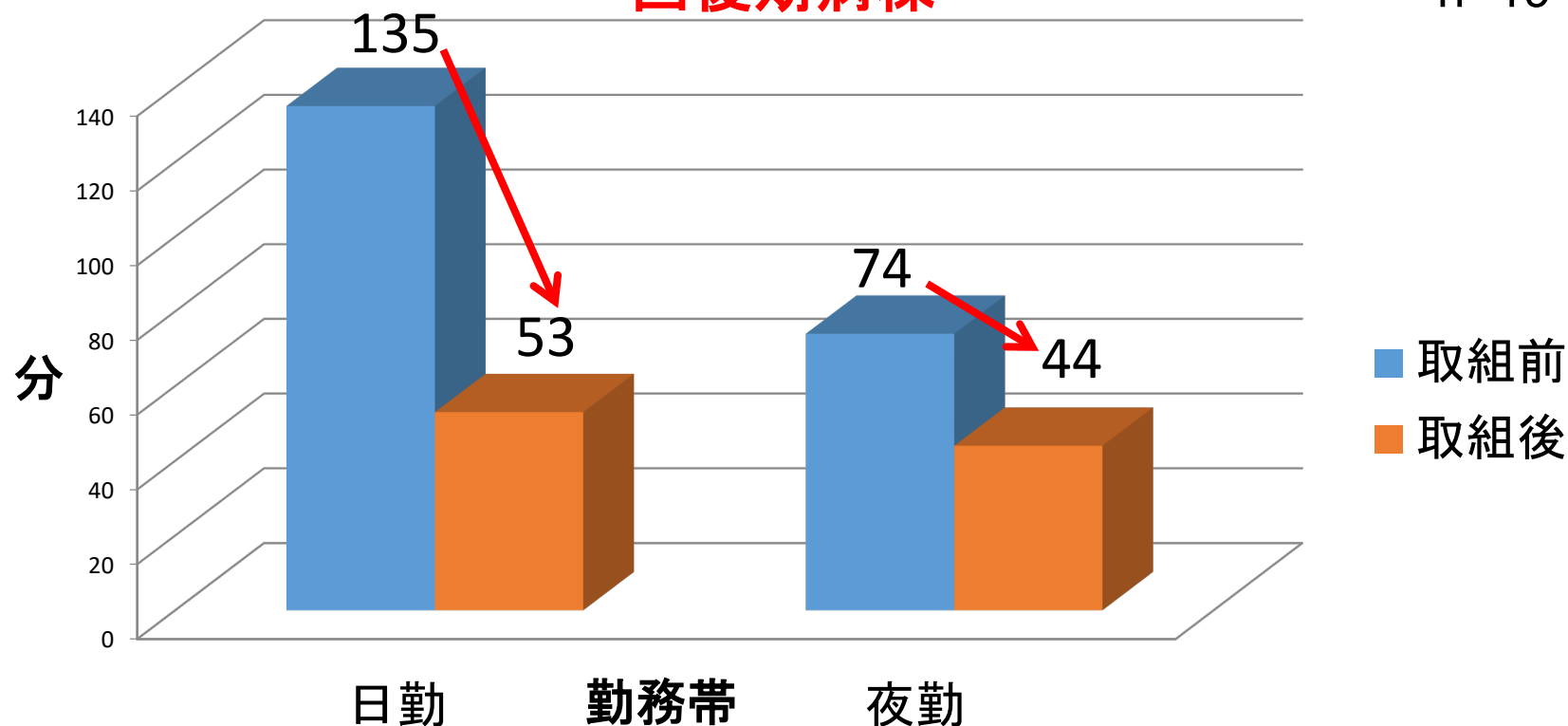
- ①受け持ち看護師が配薬カートから担当患者の1回ケースを取りだし氏名を確認し投薬するまでの時間
- ②薬剤に関するインシデント報告件数

4. 取り組みの効果・成果

薬剤管理時間 取り組み前後の看護師 1 名の平均所要時間

回復期病棟

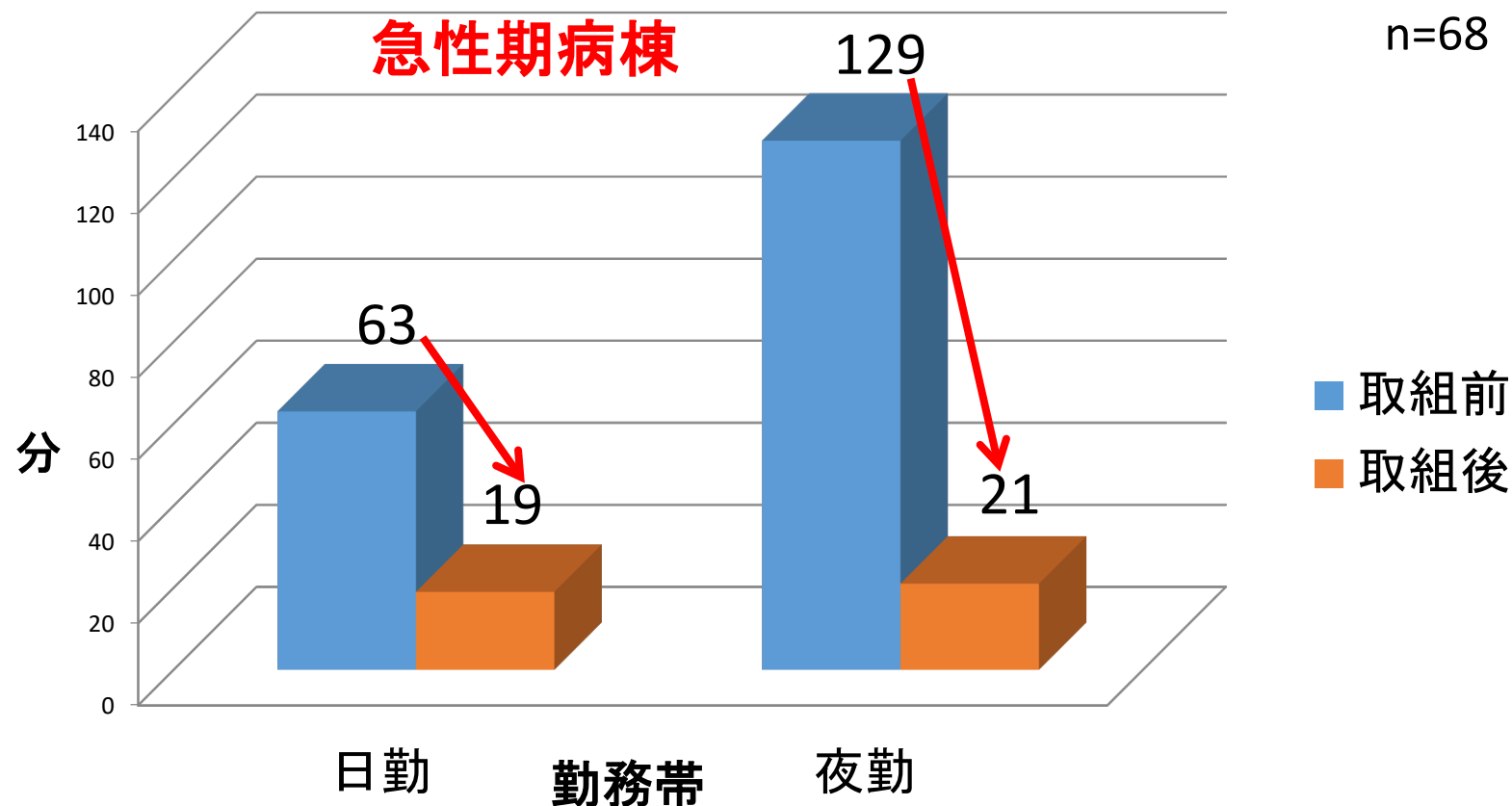
n=19



「回復期病棟」看護師の病棟薬剤管理業務にかかる時間が減少

4. 取り組みの効果・成果

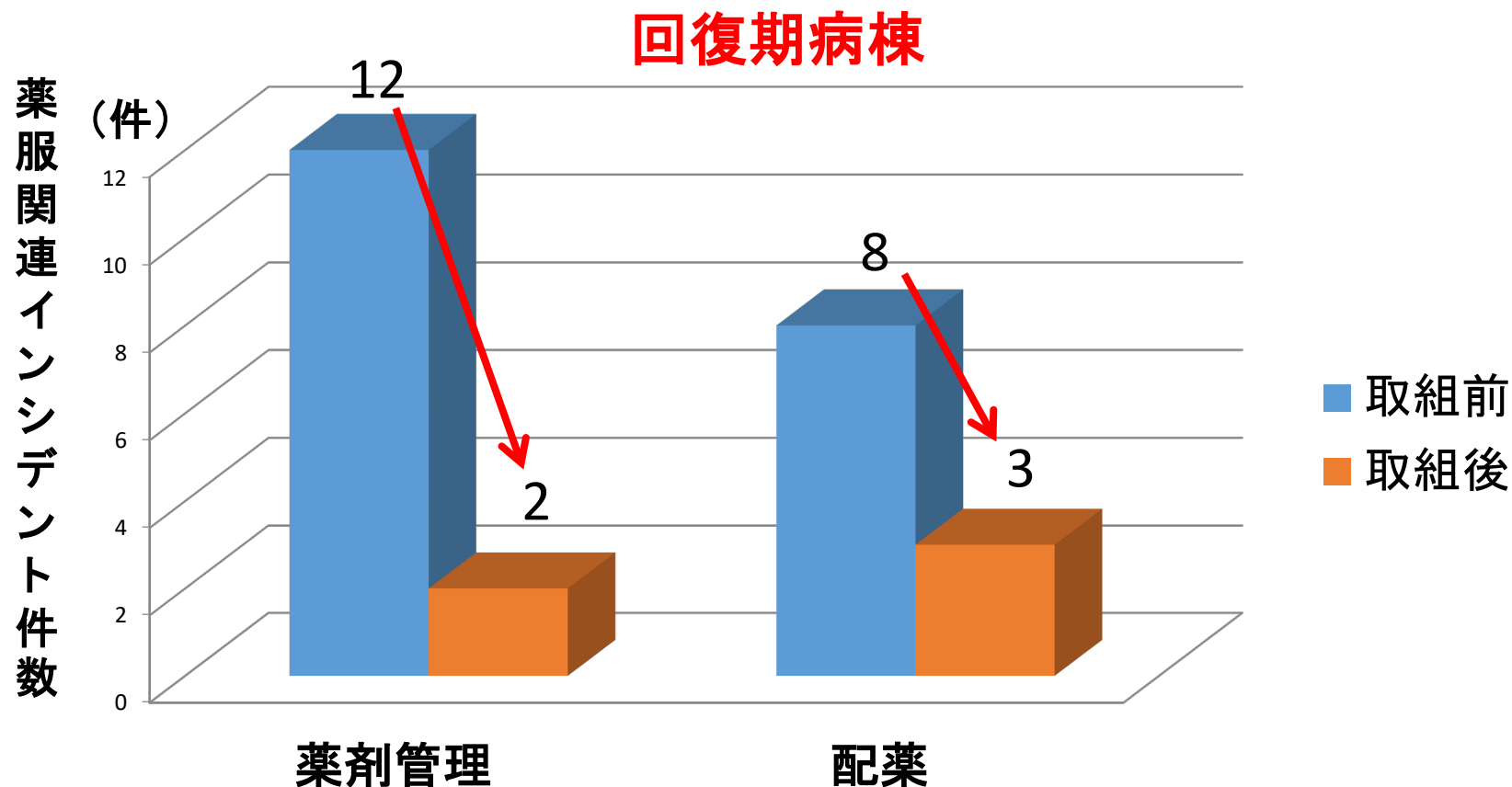
薬剤管理時間 取り組み前後の看護師 1 名の平均所要時間



「急性期病棟」看護師の病棟薬剤管理業務にかかる時間が減少

4. 取り組みの効果・成果

インシデント報告件数の変化



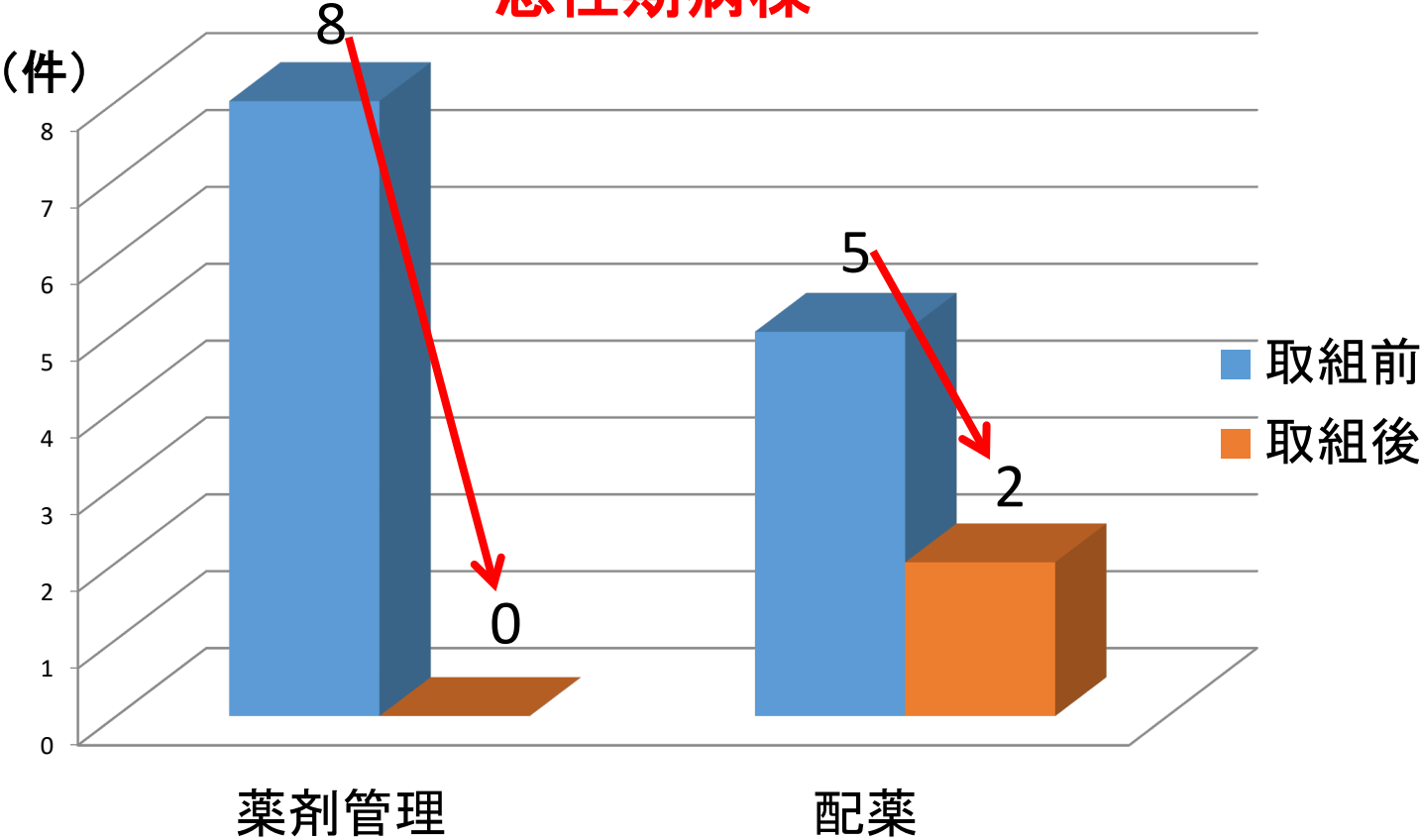
「回復期病棟」の**薬剤関連インシデントが減少**した

4. 取り組みの効果・成果

インシデント報告件数の変化

急性期病棟

薬服関連インシデント件数



「急性期病棟」の薬剤関連インシデントが減少した

4. 取り組みの効果・成果

まとめ

- 取り組み後は看護師が**ベッドサイドケア**に早く取り組めるようになり患者と密に関わる事が可能になった
- 始業前時間外勤務が減り**薬剤管理**に対する**ストレスが減少**した
- 薬剤師介入後は**薬剤準備**に関する**インシデント件数が減少**した
- 病棟薬剤師が内服準備に携わる事で**投薬把握**や**医師への疑義照会**の**効率化**に繋がる
- 病棟薬剤師、担当看護師と共に、患者の退院を見据えての薬物管理を実体験し、**両者のモチベーションが向上**している

5. 今後の取り組み

- ①タスクシフトで得られた時間を患者の身体能力向上に向け
ベッドサイドケアの充実と個々の患者に即した在宅復帰支援にあて、看護の質向上を目指したい
- ②メディカルスタッフ間で互いの専門性を尊重し、**情報共有と連携を強化し、チーム医療**に取り組みたい